俳諧民林集

春下

第貳号

へ 5
1257
2

へ5
1257
2

三月・弥生・花見月・桜月・春惜月・季春・仲陽・病月
春なりて花咲ける竹の弥生花いやあひ月にいたりぬれば
・暮律・暮春・春月・花月云云

三月や子の年さす末　古丈草

神垣の弥生ひらけ門の柳　古去来

山の奥社まうでの弥生哉　如白

雲雀の先へ雨ふる弥生哉　北枝

嶮の雲時雨ふきやうれ　賀枝

上巳　日三月初の巳の日を上巳と云ふ曲水の宴ありて五三月三日を以て上巳とまるる魏晋以後の事なりと有羅今は三月
三日を推て巳の義とまるる
国の俗の習ひなり云云

小流世の子しし上巳の家まうで　生　不　由
車　生　流を　上巳　下サ　宋　素
花色　世　きよ　白ふ　巳　麦　秀

巳の日祓　上巳三月上の巳祓日水辺にてひして疫病をのがれ
ときくこゝろ也　周の世よりしを魏の時より後は三月三日
を用ひて巳の日を用ひず云云　事

花ちるみちをこの日祓う事　仙　月

須磨の御祓　増　光孝氏須磨の浦に左遷の時三月朔日巳の日陰陽
師よおほせ　こゝろ　舟に人形をつくり流
せり　源　流て　須　磨　藻　雅
流ひく　須　磨の祓　水　壹

経供養

摂州四天王寺太子堂の北の間に経堂あり本尊地蔵
観世音三月二日経供養あり

経供養の他力を　一　経供養　下サ　苔　枝
ふきおろの旅よりて　経供養　、　方　水
牛馬に供をのこして　経供養　　桜　受

曲水宴

盃をあらの事　日　めぐり　水のこゝろの外のうと河のうち
ゆ始せり　帝　よ　賞　已　石　帝　前　よ　詩　を　ほ　う
講せられけるこの　所　講　水　よ　盃　を　う　の　へ　て
文人　ち　き　を　数　ふ　ま　ち　り　因

曲水や　歌　よ　を　ま　れ　て　遊　ひ　ま　り　五　係　友
出　の　や　こ　ま　ま　ち　ま　ち　波　の　こ　の　帝　、　花　み
曲水よ　藻　世　ま　ま　ち　ま　ち　高　き　流　を　小　狭　九

曲水の酒や盃ひろ葉　俳諧

桃花の節　三月・桃の酒・白酒・蓬餅・桃餅・桃花を酒に浮べし
ものの八百病を除き点者をまもるものなり　本

ことぶきせをぬ花の代や桃の酒　高代女

ゆるよく角よりの花ひやをり社酒　菊葉子

日もすのくんつも赤ーー桃のさけ　エチコ　葵史

花まてもそむて出ーう桃の酒　下サ　之亦

なるーー社人も参ふてを社酒ゝ　方糸

ふきかるよる花垂のかつる桃の酒ゝ　貞忠

ほのつきに横ゆーーきてをのさきあ　花湘

白酒

ことぶきせをぬ白酒出ぬ花の飯の河　上サ　由儀

白酒や二階ふるのひる空ーき　ゝ　桃禎

草餅　年　昔周の幽王淫乱群臣慈ひ若ーーぬ曲水の宴ふ或人ふ
ふちを幽王ふ参ーせーをを王ふの味をめて宗廟ふ参ふへ
ーーのなかーうちふをふをうの政ふうて世ふうーー
ふ　十　ふ　ふ

黄色のまて深つちん仲の餅　古　嵐雪

ふふをちや赤紋まーて若をふる　下毛　桃左

ふをのうを意の味ふや茅の餅　下サ　貞忠

州をちの使ふ遠へぬむふまを地　徳義子

使保ふのまを使ふ意や茅の餅　金沢　學成

[illegible]餅や焼の〳〵ての理の白し　ムサシ　田左

掛[illegible]時[illegible]事の餅丶　竹壺

[illegible]や[illegible]の餅　エチゴ　奏史

鶏合

三月三日より[illegible]

[illegible]唐の明皇清明[illegible]

[illegible]坊を[illegible]五百人を[illegible]

[illegible]世[illegible]

[illegible]天長元年三月四日[illegible]

[illegible]

仕丁[illegible]

鶏合[illegible]　下サ　一亭

[illegible]集[illegible]　古　曉壺

[illegible]を掘[illegible]や鶏合丶　玉清

[illegible]の組[illegible]　芳枕

[illegible]八[illegible]や鶏合　古　碁角

[illegible]人[illegible]年[illegible]世[illegible]　祐之

[illegible]人の[illegible]　葉葉子

[illegible]や鶏合　サヽ　楳堂

[illegible]や[illegible]　サヽ　花調

[illegible]

[illegible]人の[illegible]　出八　隆[illegible]

[illegible]　[illegible]

おもしろき上にまた鶏合　エチゴ　氣儘

雛遊

【増】同じくある事なれと又八十まての世にハ雛なる遊し
【源】に八九月九日の朝にもひいなを作りし由なれハ此古
今日よりうきしぬるの事なり但しひいなハ此ころの俗より
まつの世て今日の[illegible]集にもみえて
まへて八世作りし由なりきれと今の世にいたりてハ三月三日を
もて俗にひなの節句と称して都鄙ともに出まつりて江戸
室町并尾張町十軒店茅町抔まて二月の末より
ひな市立てにきはへり

雛なるやむかしかたりある女ぶり　古香[illegible]

ふりのある世の思はれつむかし雛　多代女

詰の物[illegible]のよしひなまつり　[illegible]

[illegible]雛、　作文

別段[illegible]や雛のひた世帯、　[illegible]

[illegible]日より手傳ひ多き雛ヶ形　[illegible]

[illegible]市の雛、　晨風

[illegible]雛見る人やおとなしし、　[illegible]

[illegible]世なる雛ヶ形、　[illegible]

[illegible]雛かれ、　大車

[illegible]雛の事　[illegible]

[illegible]　心星

[illegible]雛の[illegible]　[illegible]

青きを踏

唐の俗上巳の日士女遊戯するを云なり又三月三日上巳踏青雑記云なり 范 [illegible] 圓 [illegible] 人日の習人遊戯の [illegible]

[illegible] ありて青きを踏むなり 二三町 上巳 俗

御燈を北斗に奉る

増 三日は八北山吳岸寺なるの主なき峯に火を北向に焚て三度佛あり [illegible] 北辰に供せ奉るこの夜今法殿に [illegible] 公 [illegible]

藥師寺家勝會

七日出寺天武天皇の時形とこの夜毎年七月宮僧 [illegible] 経を講せり [illegible]

石清水臨時祭

増 中午日南祭は [illegible] 先中辰日或は有業人 [illegible] 校をこのきしに [illegible] 仁壽殿の [illegible] 陪従近衛の百人求るこの [illegible] 朱を会せ [illegible] 毎日は大臣以下のきしの [illegible] 仕舞人の [illegible] 三献の五献のうち [illegible] 平の [illegible] 門に礼めしき八情を [illegible] 形束統の報賽のしめり

鎮花祭

公 花しづめの [illegible] 人を [illegible] 結んしめ [illegible] 官より [illegible]

繪踏

西国にて毎年二三月めぐる切支丹邪宗の者を [illegible] 絵像を [illegible]

寒食

増 [illegible] 百五日清明の節の前の二日をいふなり或百四日或百六日とも云なり [illegible] 唐土にて [illegible] 魏武帝北方の寒國なる故の [illegible] 井おの刺史 [illegible] 民の帝を [illegible] 温公せしめ [illegible]

[illegible]　花海

[illegible]　文魚

[illegible]　西我

[illegible]　花外

[illegible]　波恒

[illegible]　赤岳

小弓引

[illegible]　川右楼

[illegible]　優之

杏の粥

[illegible]

青精飯

[illegible]

鞦韆の戯

[illegible]

[illegible]　古嵐雪

[illegible]　花海

[illegible]　姑射子

[illegible]　壹長

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清明の節　三月の節なり　禊事の史を紹ふ是、寒食より清史を記す
[illegible]

汐干　上巳の後なれば汐干なり　去来

出てみるの人は品川の汐干哉　為山

人さわれ鳥も春なるひこうき　山方

弁当の菜箸も遠き汐干かな　上巳　心星

遠くまで女も中のぬ汐干かな　白蓋

[illegible]

土佐の海より硯石を取 三月廿五日より

硯石きりとりてやとさの海 不知作者

蛤ふる 此の先まで突て蛤の

ふくさみよ蛤ふる日和うめ 上ヶ田 像

雇ふ手て蛤ふる 案内の手 、 柏葉

石山祭 三日 粟津祭 三日・一乗寺祭 五日より

水尾祭 九日・高尾の法花會 十日・泉涌寺開山忌 八日

囲 沖作上人の為に建立ひろめ 初めハ法師寺と云ひ

安良日花 増 八日 高尾ハ法花會や 但要の歌 高雄山ひろめ

白三てん祭 ふもとより 夫 よりひろめ

吉野の會式 十一日・禮拝講 十三日 叡山八王寺 ・祇園一切経 十五日

壬生念佛 十四日より廿四日迄狂言ひろめ・稲ア・数比茶・陽立ひろめ

壬生踊

結ふ書と やふたのくや 壬生踊 下ヶ 菅原

菊ふ宮のひろめ 人ひろめ 壬生踊 、 壱長

ふる人ふ人ふ ふるめて 壬生をとり 上ヶ 陸雨

今風伝ふひろめ めてしし 壬生踊

奥方てさとふ ふ 壬生をとり 楽屋

世ふ人ふ人ふ ひろめ 壬生をとり 花海

勸學會　十五日康保年中より大内記菅保亂狂言綺語の罪をあらためさんとて文章生達の學徒をあつめて三月九月の十五日毎に行ひ始めしなり念極楽にて當一夜山月西円と紀家名の作りあるも此會なり勸學院八三条の北壬生の西今の崔の北其後なり菅原氏の學生地學生ひとしく此學院に集まり三条大宮の西よりうつる

梅若祭　武藤隅田川の東木母寺より　十五日

梅若丸　仙月
別れをしむ人の山連や梅若忌　甘藻
近くても一日の命や梅若忌　ハせを　花洲

嵯峨大念佛　十五日狂言ばり　千本念佛　嵯峨寺の念佛なり狂言ばり

人磨祭　十八日　淺草祭　十八日江戸浅草宗世寺境内三社の祭なり

御身拭　十九日嵯峨の釋迦の開帳ばりて御身をぬぐふなり

麦秀
ぬぐふ先へぬぐふ麦や古身拭
ぬぐふ日も人八出像よ古身ぬぐひ　下サ　玉頂　風什
近つきの影もそなるや古身拭　平ヲ　月暮
ぬぐふよ都へ出て古身ぬぐひ　子布

御影供　廿一日弘法大師入定の日なり寺よりなり寺ばりて高雄神護寺仁和寺ばりなり女の詣もなり

御影供　永益
高雄の女詣　三月廿一日作新撰修寺寺なり女人の参詣仁和寺八寛平法皇の住尾寺なり

忠度御宿を
かふ

思来るもみち高雄へ来り鹿　尾村

忘られのまま高雄踊の白拍子　喜人雄

新の日をなぐさらふ高雄踊りかれ　樹石

高雄山峰に日を埋みて廿一の朔　氷壺

順の峯入

滑 毎年熊野より葛城大峰に入吉野に出るを順の峰といふ本山方勤之聖護院御門主においてこれを勤むる也。吉野より大峰の後に入熊野に出るを逆の峰といふ当山方勤之三宝院御門主において吉野を行なる是天台真言両派の奥秋吉野を行なる

峰入や捗ならしけり橋のうへ　出八 立嶋

よそ花を打のくし里明の峰　い嶺風

峰入や声は笑えてこえぬ連　下サ 芦琅

ごゑ入の明はころやよしの川　弁之 旧左

峰入やえおろき花の山のうち　茶交

こね入や峯肩まゆる雲ありり　ヱチゴ 葉居

峰入やおくせぬふりもちのう捗　、史紹

こゑいうと送りて和紗る出立かれ　上サ 虫儀

田鼠化て鶉と成 同 穀雨の節の 兼併あり

田鼠の鶉となるか去の日和　下サ 蒼長

[illegible]やさそを田の嵐　祐之
田歌の面さらゆる鶯の音　不爭
鶯なるしらうえを田の嵐　下井　玉清
田植さそや鶯よりあるる飛まそる　宝船
初のふそ田嵐ふのうつ業　上サ　知足

穀雨の節

二月の中なり・稲荷の御出中の午なりは祭日なり　油の小路七条南なり

萍生初る

月数日の事は象候なり

萍や生そめそ新の雨　古白堂
うきぬやをちのよ生初る　下サ　弧眠

八十八夜

霜の生そ[illegible]やそ蘆の生る　下元　巣鳥
生初る蘆そ日長きそそ業　丶優く
川その去る八十八夜の船　宗　公成
溝掘りも後ふ八十八夜の事　舟井　不由
生そつ寺八咸き八十八夜ろ孔　有仁
年のそや八十八夜さそ宴き　巣欣
萍ふ生る苗屋ろ蘆ふ生そ業　舟井　文種
焼そ世め咀の畠や忘そ業　下サ　以兄
[illegible]業ふ業咲ろ孔　丶玉清

忘霜

初春の[illegible]　[illegible]　[illegible]史

[illegible]　上毛心星

常春[illegible]　[illegible]　シナノ毋月

暮の春

・夏を待・春の限り・春の名残・春のこゝろ・春を惜む
・三月尽・春惜む・春を逢ふ

白い行く春や　大[illegible]の春の夢　古　蕪村

箇条の吉野をこゝに落ちる夢　古　蕪之

行く春や鳥啼き魚の目に涙　古　小園

ゆく春や[illegible]をしむ人の涙　[illegible]　生寿

行く春や[illegible]　[illegible]　[illegible]山

行く春や[illegible]の花の蕊

行く春や行き[illegible]の畑打人

行く春や[illegible]

ゆく春[illegible]の都[illegible]首途[illegible]事　上毛心星

行く春や[illegible]　下野　蕉堂

行く[illegible]山春を[illegible]

行く春や耕地[illegible]人の[illegible]

ゆく春や　[illegible]　[illegible]

夏近

夏[illegible]　[illegible]　一世

[illegible]　蕉雅子

春惜

宋 楊
史 紹
英 史
合
古 水竹
蓮 子
ムウ 女

燈塞

心星
玉 頌
陸 放
由 儀
家 靜
東 吏
出 高
一 摩
谷 西

炉塞や苔の焼きまのふ寄ふ　家鄰

焼塞て小机やてふやしてり　惣父

鼎の炉を塞て苔百八寄ひ出ん　由儀

炉ふ苔ひやてふ鳥ふへ世の去り　花海

雨寄や塞て炉ふ寄て寄てんる　柳翠

去て羽のてしる巣寄れ　呂恒

寄の巣や寄てうあろまひの筋　一歌

炉てやりの拙やしけふる巣寄て　堂恒

寄の巣て苔てんけふる猶う形　巣欣

鶉の巣

苔の根岸てきけて鶉の巣

寄の州てうてやてんきて鶉の巣

郭公の巣

巣のうちハ何て鳴のて郭公　峯嶋子

むさふ巣ひやてふ山ふ郭公　柳佳

雲ニ入鳥

増　暮ふ巣ふり朗鶯の廻

寄やて入て州ふ本の雲ふり巣　古閑更

鳥ふて今日やふ山ふ雲ふ巣　梨松子

ふてやて入て鳥ふ猶入ふて　巨角

[illegible]四五日[illegible]　イツ　渓山

[illegible]門田[illegible]流めるこゝ　ムサシ　竹笑

[illegible]左右[illegible]不二[illegible]波　晨風

[illegible]静[illegible]鳴　海　花園

[illegible]鶴[illegible]静　里旭

[illegible]の[illegible]　ムロ　智恵

[illegible]鳥[illegible]　チキコ　葵史

新虹[illegible]　下サ　宗紀

[illegible]八[illegible]　イツ　梅井

鳥歸

[illegible]の古巣[illegible]

[illegible]

[illegible]の人[illegible]せて[illegible]の[illegible]　ムサシ　文雄

[illegible]山[illegible]　自

田の[illegible]日[illegible]れ　花園

水車遠く[illegible]日[illegible]　上サ　青深

雨ぬ[illegible]　金精飯子

呼子鳥

[illegible]一条禄園兼良公[illegible]

[illegible]の[illegible]名[illegible]定[illegible]口[illegible]

[illegible]

[illegible]

麥鶉　古寒竹

麥の中に鶉を捕るアイフといふハ鶉の特を云ふ唯ハ特りはしるを捕る時ハをとゝなきしらふく

麥鶉寒竹きりたんぬきたる　古寒竹

[illegible]

[illegible]

[illegible]

櫻鰍　古寒竹

[illegible]

柳鮠　古相左

[illegible]

上り簗　貞徳

[illegible]

見るときこそ人ハ出来しの外り簗　仝

守りなき守もありけり簗　無山　枕

小鮎

・若鮎　・鮎くむ

暁の雲おしの鳴る小鮎かな　古寄洲

岸ちかよそひて嬉しかに小鮎くく　漁藻

日の出る浅瀬を登る小鮎かれ　由保

若鮎や石もあかのき川　戸ハ　夷岳

櫻魚

図 桜魚さくら鯛桜うくひ柿鮠なとハ其時節の景物を知らせしめる　そのなかにワカサギも桜川にすむ魚にて此名あるへし　雑魚にハ其名多けれとその数多なり 夏 桜川の流に桜魚といふもあつめしやう作れる事とて常陸国さくら川霞ヶ浦の辺にハいくつも名つける魚ありとんて覚えて其辺の者に尋ねけるに此地にて昔より桜魚と云伝へたる魚ありて春暖をうけて此川に多く上るを網にてすくひとりて食ふる則此浦の名産ワカサギと云魚是なりと云り夫より水戸の学匠に此事を尋ねしに中古常陸の国史降りぬる時国中名産の品類にあり桜魚の名古書に往々にてワカナギに転りぬと云し然れハ此魚の化なりて今ハワカサギ常陸にて桜魚といふもの必せり大和本草にハワカサギ漢名不知鮎の類色白き小魚なり西国にハ見さるを江戸及ひ東国の江川に多し但若狭三方の湖中にアマサギと云もの有り是と同類なりと云八年々々其地より人より年々おくりきて貴翫す

ちる風情ありて浅瀬のさくら魚　漁藻

水を出て大きくなりぬさくら魚　波路

名そのまゝ時に叶ふや桜魚　秋之

流る名を質ぬ果報やさくら魚　甘棠

櫻鯛

櫻貝

櫻貝

飯蛸　飯蛸や[illegible]　在余

飯蛸の[illegible]　古賦

飯かをや[illegible]　水壺

飯蛸や[illegible]　樹石

蠶　蠶[illegible]人所の[illegible]　逸閑

若和布刈　[illegible]　減之

菜摘　菜[illegible]　水壺

菜市や[illegible]　山子

桃

・桃[illegible]・緋桃・白[illegible]・源平桃・毛の[illegible]・三千世草・碧桃

・[illegible]古州・桃林　桃の天[illegible]

草[illegible]西王母園より三千年[illegible]

[illegible]八[illegible]の[illegible]

山[illegible]桃[illegible]畑の奥　節之

[illegible]屋の新[illegible]水　在雨

桃[illegible]　得芙

[illegible]　古　風朗

[illegible]雨[illegible]　[illegible]山子

大[illegible]墨の[illegible]　[illegible]

[illegible]　下サ　十條

桃の花

うハ雲をめぐりつる梅や桃の花　古茨山

桃華しぐるゝ小雨も花とぞ咲　エタイ古雪　巣

物畑ゝ内家つゝきてもれぬさま　等栽

もゝ花さきかいやゝき在ほれ　漢藻

ぬるゝとのゝ雨はさわれる花　ムサシ　四桃

櫻

・花さくら・江戸さくら・緋櫻・家櫻・塩このま・うぐさくら・糸櫻
・青柳さくら・朱櫻・淡黄さくら・人丸さくら・西行さくら・楊貴妃
・洗さくら・ゝつの尾・白ひ櫻・ふぐん櫻・墨染さくら・十弁櫻・うゝ櫻
・きゝゝ花・長櫻・法輪寺・さくら櫻・大さくら・布引さくら

おくるせのつゝまひしるまぬ櫻かな　古白桂

櫻ちるの相風もいとふさくら小　葱玉

雨よまて新又さくらこのれ　名コヤ不退

交ゝ来ゝ伸て櫻さく櫻この年　苣庵

さくらゆく水やさかゝの下ゝ　十條

雲きれのゝて雲ゝ櫻このめ　上毛　雄色

蕾てゝてゝやひさかちゝ夕さくら　ムサシ　暉糸

洗霧よさはして白きさくら小　蜂山

八重櫻

㊟いのゝ寺ゝ社都の八重さくらゝ九重よ白ひめるゝれゝ
る伊勢大輔ゝきゝゝゝ八重さくらをゝみ初寺ゝ西寺ゝ　徒

八重さくらゝハ奈良の都よ社ゝ行ゝ寺ゝ
世ちろせよ多くゝ行ゝゝ行ゝ

その世きてさくらゝ奈良の八重櫻　水壹

山櫻　紫よりもなほ遠き山さくら　古　蔦丸
清水より枝さしつきて山櫻　あの女

遅櫻　雨ふりて花ぞ開きて遅さくら　カ　柳壺

夢見草　藏　桜の異名・枝あきてやがてくさのやうなる美見草　つるもも
らめくさの命ながらへの　ふ

仇名草　全異名あり　ひとあり　州いらるる人の枝おきてこのうきぬ世
ちるをうらん　古　ひとあるて名よりあるて年さくらびと

よしやちるくさ
ちるくさ

かさし草　全異名あり　夫　祢ちるくさのうきし州ちるのきぬ世
うるはしくあるやなのちん・蓑なのもこのきし　ぬること云く

吉野草　櫻ハ吉野を第一とする故の名あり　・曙草　藏　よりの名義
詳ちるくさ

花　・ちるひの花・西の花・織姫の花ハ三月よりちるあり・花嵐
・花見・花曇・花の主・花の宮・花の使・花鳥・花の車

・花の宿・ちるこ・飛花・花・霞・雨の花
・花の白・花の蕾・花吉祥

松風ハしらるる吹て花さきの里　古　梅宮
降る雨も清めよるる花の興　古　西内
咲ちつ暇の花や人名ちり　平　左儀
ちる花せやうと花ようの毛毫　古　紫
居ちるくて雨ちらしる花のうけ　乙　良
雲自清花よりきえ竹空ちる　平　十條
宿のて花よりひまちる日暮れ　芝　蓑
空よりあきぬ松ちるくやもめり　武　華

[illegible]上より降ふり花の雨　古卓池

花宴　一義のうちの出でしまする　古沙弥

明めうち鶯の鳴き行く花の雪　古公平

散散に散ぬる花の末うめ　仁少士敬

花ちるや常の下庭のふり　道出

蔵るこの春はいとど行方の光　春水

散ぬるものうき時雨ふり花さむ　蔦丸

命を惜て長山よ和る

世を捨て散ぬる花よつの光る　分愛

うの春こそ人にうるしん花よ我　峰根

夢をしらしく長時て花よ月　城之

神根のもを惜ふさのうの形　雪英

ひちら絶しひしく春夏秋の光　杉の

夢傳や宝ものの見て花のちる　業月

雪のちるこめぬ花の散ちる　業雪

ちり過て花の雪ちる井筒小　上毛　業外

物衣の袖ふる人や花ふき　秋田　甚仙

未ひく世よ近人に春もひえうれ　業園女

花の錦

[朗] 花はさくせい柳さくらをあきさせて
春を花のみ咲きちりける定家

さきそめし花の錦は散りつくす　佳苔

花の雲

[古] 春の山のこずえは白雲のたちかくすかと
とはる・人丸集よ・白雲の色の手枕よりそえつる木末の梅

花の雲錦を上ぬる波の色　菊

花の雲奥もなつかぬ山路哉　古雄

梅の花の中のうもれ木の雲　魯山

花の雪

[亀] ・庭よりつもりつもりて散きそふ梢は
きゆる花の白雪　考世

花の雪雲は南風のさそひ出し　如白

花の瀧

[傘] 花の瀧は瀧の中にて花の瀧
瀧をもいふ云々ふさとも花又花のちり交て落る
白糸は世にも長きものなれども一筋よりなる八十八重
き織なすよりかさねたる八十八重なれば又瀧の上さまに
よりて瀧とも云
はるかに

はるかに八重なる山のうもれ木の雲　巣欲

霧はるかに散ぬる花の瀧　弘壺

梨の花

・山なしのはな
・梨の花

八重のうちにうつる梨の花　山方

曉や葉のうち散る梨の花　帰風

雨ちりぬ梨の花　イツ魚躍

海棠

・かいどう ・ねむれる花

海棠やをしまれてすてさめん　古　蓼太

海棠は椿象のふ土佐画の如し　卓郎

辛夷

・田うちざくら

梢にも花は辛夷の白さかな　古　白雄

辛夷には夫々住居かな　烏吟

躑躅

・岩つゝし ・柾つゝし ・霧島つゝし ・深山つゝし

雲晴り躑躅うつるや滝の水　爲山

庭山の岩間おさへて咲つゝし　上毛　心星

山吹

・藪学貞経云久ざんふきハふきのたうを云よしと 和 頌八 山吹ハ 国 公任卿も山吹と用ひ来るハ宗祇もまた八重山吹の名ありと云々

山ぶきや書院ハ花ニ五番　爲山

山吹や垣の隣あやめ住こ　上毛　茶山

やまぶきやさし渡しゝある魚の影　下毛　經好

雨舎りして山吹の花見への如　其瀏

山ぶきや物にかつまぬ影の色　上毛　五葉

李の花

根ハ物まゝの花挑月立ぬ　下毛　未ゑ

連翹

連翹の庭うちこまで連りけり　上野　静雲巣

緋桜下連翹さくを戻りけり　古乙人

連翹のひろのさきや雨の宮　十條

跨ぐ塔も屋ぐてや木瓜の花　乙良

乱れ目よ見まれぬ山や木瓜の花　都く

見つるまれおてはくるる木瓜の花　サカミ　楳堂

令法（レウブ）

[篆]又ちさつもりとも云ふ淀川つくしまおて花八反色まり紀年よ葉を揉て蒸て合せ使ふりと云ふ[系]紀年の[illegible]

長年の[illegible]

山人も播平又ておくちつもり　古　寒杉

山里や旅ゆ[illegible]令法飯　日高古　塘雨

沉丁花

沉丁花播平屋ぐ令法飯　巣欣

沉丁花の[illegible]　古　三津人

[illegible]沉丁花　米有

木蓮花

黄葉と青ハ咲て木蓮花　花海

繚らきて尾の[illegible]や木蓮花　ムセ　其閑

門仲よ上て[illegible]木蓮花　丶巣楽

霞ぬ[illegible]木蓮花　十條

[illegible]木蓮花　巣欣

長春

長春や岩を沒て井の井柳　合

日の暮るゝ窓先めくらしを責むる　宋鼎

石南花

石南花や根よりあのいくめくり　尋香

赤南花や　流れをうつる花ぬけ　花洲

石楠花や岩きき苦のくふしき　文里

赤南花や葉のつのそろひ　桂雲　八吉風

藤坊の花

花と名の付いらうす藤坊哉　巣欣

小米花

雀なのらんはなのしや小米む　下ウ　精中

田へ水の通る搦や　小米花　米哉

小手毬

小手毬や屋敷ぬけ　巣欣

通草花

花をつんで名を知る咀の通草哉　不二九

日もうつきぬ山と長き通草咲　巣欣

馬酔木花

葉は苦みを以て味甘し　葉長小白花を開くなり　英を

茅ふ花下よりなき咲く　歌人ひとりうつり馬酔木哉　ゑと

へハ強よ信ず

名ゝ

畑中よ墓寄みをりて馬酔木咲　サノ　桜左

馬酔ハ赤ゝ赤ゝ馬酔木のもとゝ　鉢也

杏子の花

杏子　雨寄ゝ　杏子の花のこゝろ　住吉

林檎の花

ゝゝ　ゝる林檎の花や組やき　義成

ゝの〳〵や咲ハまんまる産の花　巣欣

榕の花　優く

楊梅（ヤマモモ）の花　巣欣

棗の花　仝

藤　如白

米有

祐之

立休

十條

蕣（クチナシ）　仙岌

秀子

古嵐雪

菜の花　物望

李暖

柳枝子

柳園

董　逸閑

若菰　茅花

[illegible]人[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]村

下[illegible]の[illegible]の[illegible]　詠之

[illegible]　西馬

[illegible]　[illegible]

[illegible]　雨興

不[illegible]　秀[illegible]

[illegible]　其[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　分[illegible]

川除の堤あらはれ　芽[illegible]ぬき　一　三郎

[illegible]　一　[illegible]頃

[illegible]　一　十條

今[illegible]　芽[illegible]　侯水

[illegible]　一　雪莫

[illegible]　[illegible]　楽[illegible]

五ゲ形ハナ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　倩百

まつりにはゆくやもさめぬ母子艸　京　如衛

白山の八重かしこの母子け艸　ム芸　桐左

夜は人目も通ぬ花やらん母子　ヽ　甚渕

母子草

荒麹草とも書す色黄にして麹の色に似たり葉形は荒の耳のあるごとく又白毛あり

ゆかしさよ花にも幼な母子艸　ヒタチ　守三

五加木（ウコギ）を作る

藕 五加木春苗を生ず茎葉ともに又青し叢を作る赤き又蔓草に似たり高さ五尺黒刺あり葉五枚を生ずる類

ひとつかみ五加木摘みも白ハかり　出羽　五風

手すさみの手にもとを結ふ五き摘　ハ　有雪

茶摘しば又の五加木の名残　セナコ　常晴

摘やうれ実はさらにあきたこの如く　ハ　古棠

はきれすき枝は縛りし五加木の手　下サ　二柳

縮むぬ尾の雑煮やうまきめし　イツ　其敬

住吉も乙もくさつまうらの垣　川越　不二丸

若芽ふむ日は摘むなきさ五加木の名　サツ　弘渕

春菊（シユンキク）

そろく合ふ 好生のそのく

・高麗菊 八九月種をおろし三月に苗を起す云々又 深黄色の花をひらく葉は菊に似たり名を春菊と云 其花

春菊や花さかぬまも静かかな　エナコ　辨史

新茶

〔夏〕・古茶・手始め・茶摘・昊茶・新茶を点じて夏とす　摘古今まで宇治の茶の夏の茶を煮する句あり　夏新茶の来客の絶ざるを新茶を賞味する句ハ夏新茶の部なりと云句ハ夏なり

来客や夜の…の新しく　　山祐

茶摘

つく嶽ハ皆西日なる茶つみ哉　　為山

笠綿に櫻の花も由ある茶摘かな　　薫其

唄ふたりもまたまたに茶摘かな　　種好

旅人の足とゞめたり茶摘唄　　柳枝子

東菊（アヅマギク）

〔大本〕葉ハ萩に似てちひさなり三月花をひらく筆のごとし

八重咲ハいかにせんとしいつま菊　　花暁子

馬藺（バリン）

花は葉より出て白弁なり葉ハ水仙に似て葉より長し　ひとゝせ二三十茎を生ず花紫竹なり今圃園に多く其外を專ら

ゆかりある色を蒔き馬蘭かな　　甘菓

化偷草（エビネ）

葉ハ車前子に似て桜桐のごとく花ハ根を出してその茎を分ちて内紅色花ハ梅花黄の小紋にて後ハ白花の小紋に似たり一名山慈姑根鱗に似たり

…風芝の根をいでゝ…咲て…　　葉雅

金鳳花

〔大本〕毛茛（キンポウゲ）なりけしに似て花に似り…毒草なり紫黄の花の実…

まくらし…時ならぬ金鳳花　　祐之

仙臺萩

〔大本〕葉も茎も萩に似て花黄大豆の花に似たり

名にしおく仙臺萩や百子米　蘂雅

眉作りの花　一説鬼薊ともいふ人州見あり眉掃よ

薊

秋さけて見る玉の蕚の形　イツ乙郎

余の州に多くあるよし　鬼薊　上州素行

狸藻ともいふ　薊の葉に似たるもの　信州

花の形ちいとしい　鬼薊　心星

もりてうつくしき　鬼薊の葉に似たるもの　上州　由良

鬼の名ともいふ　出羽酒勢

花は白紫　鬼薊　狸藻

拾州の丹よ　時につかはる　優々

櫻草　花色もよく櫻よりは小さく花屋より株数を買ふもの

の小き鉢よりも多く見る是なりぬるもの古実樹より数種あり

九種州七種州ともいふ種々あり

咲くよ鉢をあらくて　十條　下サ

雪おもを秋うせやきたる　一夢

き鉢て鉢まで　罵ぬ　州　玉清

植のくて花のふたりにて　東志

櫻州まつ　花の形　蘂交　上州

花色紫の形儀ふて　契史

[illegible] 嵯峨風
[illegible] 笑草
[illegible] 雪峨

虎杖（イタドリ）

二月苗を出し草丈の子[illegible]上よ毒き根の長[illegible]
七月花をひら〳〵九月実をむすぶ[illegible]付孫曰杖八生若[illegible]

虎杖の新芽や井の井　兼校子
いたゞきや嗅ていなく牧の馬　兼交
虎杖の葉さまよふ荒地哉
いたゞきのそよぐ葉内侯　精井

いたゞきや笑ハさらも加茂の表　巣欣
虎杖や馬も味ふ秋葉色　優く
裏口のちのき裏や若芽の井　兼樊子
岩しをを笑てそよぐ虎杖の井　彩海
葉の手ゝ伸ゝ伸ゝ若芽行　甚殺（イツ）
行ゝ先も行ゝ塚を若芽の井　去友
葉ゝ根の長ゝ[illegible]ゝ井　象友
墓塚の把汁　吸ゝ若芽井　水
葉を持ゝ若芽ゝ若芽井　巴雪

茗荷竹

三月菜

蝶のあそびまろや若菜の中　上サ　由儀

三月大根

まろ人の皆にあまりし三月菜　東雪

生魚にかしき三月大根かな　、真寿

踊仲のまくに三月大根かな　欣来

青麥

青麦の上に起ぬ行つ乗し哉　古　薬古

青麦や吹矢あくさき里の隣　、桐古

白波を見て畑にまし麦の伸　十條

華鬘（ケマン）

（和三）華鬘艸　俗称あり高さ尺余葉田ぜりに似てちさく三月莖端に花をひらく淡紅色房を作て垂る葉ちと書く花鬘を飾るかたちに似たり（花）其花ひらく色勢に耳似たるゆへ上る名義ありかたに一の香をとする中咲に草花の黙なり　表裏

おそはしきや高く起る俗名牡丹と云

沈む夜のうる窓に咲ん華鬘艸　優之

丁子草

（大本）葉ハ柳の葉に似て中の竪筋ありて白く花丁子に似て淡黄色と云

偃ひ来る見つけてきよや丁子艸　巣諺

寐をしくさまに見る花や丁子草　優之

弥生山

貞徳翁の君伝にやよひ山の名にあり

但以来とうの名ぞなるや風にやよひ山　由儀

又此より華の八重山人まして　古　闌更

春の山

哉る若をまろれる道や春の山　升達

春の鮒
春の色

江の影のうつる空くもし春の山　エチゴ 清水

うちつゞく春の氷やはるの鮒　ムサシ 竹友

蛙鳴の外はいつもなる春の色　尾村

歌よみにたはるゝまゝに春の色　祐之

艸ぬるむ宿の心かはるや春の色　波路

うきよくとゆるや人は春の色　如白

雨ふるも松の葉くゝるやはるの色　常晴

木も艸も白みかゝりて春の空　ムサシ 峭山

人のことに毎筆のしる山や春の色　詠壺

春朗詠

霞ミもや春をくれたる畑の雪　永年

正月や茅ふまさ菫の出る　桐雪

春の日の流るゝ枝ふくみ梅かな　徒濟

流降や緑日暮る松の色　學湖

手を以て静に春の雨　五巣

月光の枝に見えぬ霞かな　花宇

かくれなき流の上に霞かな　松乃女

大空に鍬透る春し江戸の春　慈玉

庭にてるや子の日の小松山　仝

梅の戸へ立寄て再の沒　義交
十郎兵衛屋敷へ行て寒うあり　惠沙
黄昏の頃なれば　之光
うきたちて遠眺の所る世梅代　吳田
世俳よ世と伝をう世ふこの郷　方中
世俳世ひまと無ふく義と笠　卯月
無ふも世知のふう世ふて二日うあり　以肅
世のそしき無ふしるうの何とふ　宰山
おもこうよ明所町世杉とのうう　山方

春明稿

たそのうしろ世無の住中世白魚取　峯子
時世ものへの知らく雪多うあり　重郎
咲世のうおのくうそのまれう利　令
そ俳の沈ふもそうの世白　賀無
初年世杉宮のうたの遠行の生　賀野
紫苑世梅俳ふ居る菓地内　鄭野女
行うう沈陰のうきれうたの雪　花稀
一ふんう無そうう梅茶叶　子
茶水世市ふハ字うる苦よふ市

匡稿

巨勝
古賦
蔥白
蓼藍
椒
今
蜀椒
今
卜米

麻
苧
芋
大豆
小豆
菉豆
赤豆
白豆
黄豆
黑豆
胡麻
荏
蕎麦
稗
粟
黍
稲
陸稲
糯
今
志考
結城
今郡

鐘つくハ寒き雲間の郷 乙也

あさつゆハ空行る燕や草たゆる 冬守

春雨や世の中何となくしたし 貫年

黄鳥や旭にむかつてなきのぼる ヨハ 三ツ子丸

門松や舟のみ上る芸の細ゝ 旭

大空の武者あらそひの解ゝ 清氏

松ヶ枝風いさなぎて残月 春安

のぼる日も飯も筆にも物の影 仝

ゆく春さらに布はしなの桜ゝ 壮山

出居る雲や衣きさらの春の風 アハ 蟻城

めぐるのも海と清し山の音ゝ 飛手

頃のゆくり寒さハ花もきさらき三ケ月ゝ 蘂儀

まつりに松の枯り立雪霜のかく アワチ 鶴池

梅が香に袖まえてうつし穂花 サカミ 立宇

柳や人のそれ出し小松原ゝ 布丈

井華水清きハ春の常若のら 昌 雙鳥

夕風や柳のふくみ吹き梅 玉井 高広

ち捨く身のそれ柳の水ゝ 有芸

行よ注連なわし古井戸松の葉　ヱチコ　乙良
まつ人ハ訪ねて垣根よ春の雪　、等成
黄色ゑ行ちゝよ寒めぬ分の志陸　、雪湖
姿ゑしいなを屋蘭を花ひらり　、子布
初雪やうちきゝ初の虫　仝
住岸ゑふる根をうゑて芦の角　、等成
ふゝのゑよ咲つゝれ世め雪花ゆゝ　カヒ　東美
住降よ文ゝ雪めゆくゝう年　仝
年よ咲のちゝ居ゑ初うち　金山雪

府寿のちゝ新ゝ世め夜ゑ物のゝ　、接泉
ちゝゝゝよ寒のちゝ寒義の蓋　、義松
ゝゝよゝゝ新ゝゝ花ゑ種ゝ　、義成
物根の世新体ゝ咲蜘ゝ　仝
美州ゑ雪ゝ咲ゝ居の世ゝ　、松吏
せゝゝゝゑ寒ゝの松ゝ寒ゝ　、葉童
住降ゑいつゝゝ寒ゝ日の白ゝ　、物巣
ちゝゝゝ根ゆゝ寒ゝ義雄　仝
晴ゝゝゝ寒ゝ寒の日新海ゝ　仝

まさこすもなく出かはりの春　ムサシ　佳雲
浮むかし浮ておく月のうき雲　、　仝
手まくや寄りて世の毛むつき　、　丹鹿
独らきの比しく出ちや鶯の梅　、　集寿
浪筏や角ぐむ芦のむらちら　、　山祐
浮椿や行き合ふ明ぼのかし　ヨシノ　竿嘯
年経ぬやうらむす頬の杉出る紀　、　三棚
蝶にも出てくるもの小日和かなのうみ　上毛　巴釈
都しき人の霧とぬめ流て山　、　珠氷

麻あきのうつくしさや里の舟　僑之
枸杞の葉もゆかしや庭の花かをる　仝
朝錦に見ゆ世のつたへし残の蝶　后
草の花の泥土や角の節のうら　、　思成
遠雉ハ菖しらぬのし楓の花に　下サ　稲古
幼駒や人ハ桃の花の入り　、　孤遊
明がたのさくら返りさくら日の出　、　浮月
初霜にあゆる一株の桔梗うれ　、　鳥水
中やうの日のもさかりや春の海　、　芝蕙

手を雪に清めて出の元宮小　下サ　松の
畑にて遠き　鐘や松吉の　宮　元樹
枝うち　雪に　宮　の　小庭　うめ　上サ　一陰
ゆう日の　宮　に　焼　き　梅　種　れ　い　春　松
翌日の　雪　に　霜　る　春　雪　梅　上ヲ　梅　新
ゆ　く　陸　雪　を　ん　う　ま　い　頃　い　と　猫
若　雪　に　家　雪　に　う　て　陸　め　飛　い　寒　川
松　の　雨　や　雪　に　雪　叫　き　く　、　寒　郊
紅　の　根　ハ　ま　ら　ま　う　春　の　ら　、　吐　雪

幸　に　ね　う　鐘　ひ　く　し　梅　の　雪　、　甚　丈
聲　の　名　北　雪　と　峰　雪　ま　ま　う　め　の　む　、　鶯　春
陸　雪　の　梅　水　に　ら　し　ー　ま　う　の　梅　イウ　士　鶯
山　の　雪　に　し　て　里　ま　う　て　い　の　北　う　、　松　宮
新　う　咲　に　ま　の　ま　の　春　の　麦　畑　清　良
宮　雀　傳　下　う　魚　釣　る　海　北　代　春　海
ま　こ　の　こ　雪　ま　う　て　雪　の　陸　う　代　鶯　雲
見　う　や　る　陸　や　う　ま　う　雪　祇　を　ま　く　子　子　布
雪　の　匠　て　雪　う　う　ぬ　市　梅　松　イセ　五　能

神の名社なき柱なり　古代の表　サガミ　薫侯
を芝の猿楽　やまもとう大寺　さいハ杜酒
ひろうへの寺之門の化粧　カハ　丹前
書このの笠新よてる　ヤサ　月杵
ちらくと月白八ちまてちつ　上毛　分尾
昭ちの書ひのちしてあ　カハ　砂ひ
ちよりの望ハ　ちよう　ハ　為先
ひ柱ちと社さつきて尾の　ムツ　信民

義州　ちちちて又降百の事　、舎用
柳ちちち　舟ちちのみの柳白ふ　アハ　學樓
四をちちちちちて　サガミ　末柳
内夷ちち英蓮ちる庭の　州　、この倉
本著ちち是ちてみて内人　ムサシ　概ひ
美能ちち信へちちちへ　ムサシ　、法隆
雲ちちち一ちちちよりの池の　、一峯
雲為ちちち一　ちちき峰の坊　、一寿
ひくうちる郎のちちちの小杉ちれ　、康年

[illegible]　一奏
[illegible]　一條
[illegible]　東牧
[illegible]　鄭[illegible]
[illegible]　宗義
[illegible]　一馬
[illegible]　陣[illegible]　雄[illegible]
[illegible]　墨[illegible]
[illegible]　[illegible]宮

三都

書林

勝村治右衛門
秋田屋太右衛門
河内屋喜兵衛
須原屋茂兵衛
山城屋佐兵衛
岡田屋嘉七
須原屋伊八
小林新兵衛
玉屋久五郎版

中頭城郡
石隊村
高井郡
櫻澤邑
知足堂